

血液センターニュース / No. 1

2021年12月2日

全日赤血液センター対策委員会

血液センター対策委員会 web 併用開催

今年も残すところ1ヶ月となりました。2021年11月27日、web併用にて開催した血液センター対策委員会についてご報告いたします。

2021年度役員決定

2021年度の役員が決定しました。第1回血液対策委員会において新委員長、副委員長を参加者全員の賛成で決定しました。今年度1年よろしくお願ひいたします。



R プラン・共済学習会について

本社が提案するRプランについての勉強会を行いました。

最初に、R プランの交渉状況が今どうなっているかを、認識を一致させるため R プランの動画を視聴し、直近に行われた本社団交の内容について、指示文書及び速報を使い学習を行いました。参加者からは、未だどの血液センターでも評価基準など具体的に職員には説明されてはおらず、「トライアルが先行して行われ、トライアルの結果もまだ伝えられていない」、「評価するにあたり、いったい誰が評価するのか?」「評価基準も明確になっていない中で、実施は不可能ではないか」などの多くの意見がありました。

医勞連對政府交涉報告

11月12日、開催された医療連対政府交渉において、「原料血漿の需要拡大に伴い、以前話題に上がっていた第二採血業者の導入の検討があるのか、もしくは既にそのような話がされているのか」の問い合わせに対し厚生労働省（医薬・生活衛生局 血液対策課）は、「原料血漿の確保量については、平成26年当時から比べて、大幅に増えている。これは、製剤の適用拡大等によって、医療需要がのびていることにより増えている。過去に、第2採血業者設立の話が合った際に、今後のびていく原料血漿の必要量については、日本赤十字社が責任をもって確保するという話をいただき、それをもって、今のところは、日本赤十字社に確保をお願いしている。第2採血業者の参入については、厚生労働省の方で制限をもうけているわけではないので、手をあげていただくことは自由。今後どうなるか、正直わからない。今現在のところは、厚労省としては、日本赤十字社で必要量を確保されるものだと認識している」と回答し第二採血業者の導入の検討を否定しました。今後、血液事業も大きく影響を受ける可能性もあるため対策委員会としても注視していきます。

一時金交渉について

一時金が全国一律の回答で、各地域センターでの交渉が成りたっていない状況です。一時金についてはブロックで決めてるので一切交渉は出来ないとはっきりいっている施設側もあるようですが、それは組合の交渉権を奪う不誠実団交です。労使で協議しないといけないが地域センターで出来ないと実際決めているところと交渉するようにならないと組合権利が剥奪された状況なので、重要な問題であります。今後も対処方法について対策委員会で検討していきます。